

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」		
所在地	北海道名寄市西1条南4丁目17番地 (電話) 01654-2-6612		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】 (平成20年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算	10.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	10,500~16,500 円	
敷金	有 ( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (8月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	7 名	要介護2	4 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	名寄三愛病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市内の住宅街に位置しており、社会性に恵まれた地域の中で、母体医療法人と密に連携を取り、支援体制を十分に確保している。近隣には商店街や喫茶店があり、利用者と職員は一緒に出かけているとともに、家族は事業所を頻りに訪れており、地域の人たちや家族との関係も構築している。また、事業所内に増設した小上がりの窓は大きく、利用者にとって快適な居場所となっている。施設長とスタッフ間のコミュニケーションもよく取っており、チームとしてケアを実践するための課題や問題解決について、活発な意見交換を行っている。穏やかで家庭的な雰囲気の漂う事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員間や各ユニット間で話し合いを行い、理念の中に「生きがいをもって、地域の中で楽しく生活できる家であること」と、明文化している。職員の緊急時対応研修についても、すでに終了し、今後のケアに繋げるような取り組みを行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を管理者は説明し、職員全員が参加して、自己評価に取り組んでいる。数回に分け細かく内容の検討もを行い、その後の話し合いの結果を管理者がそれぞれ書類にまとめ、閲覧している。職員は丸となって、今後のケアサービスに活かすよう努力をしている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、利用者・家族・町内会の各代表や市職員を構成員として、2ヶ月に1度開催している。会議においては、事業所の取り組み内容の説明や活動報告、また意見交換もを行い、地域に根ざす事業所としての運営に活かしている。会議内容については、他の家族にも後日報告している。また、市とも密に連携を取り、制度の疑問等の問い合わせや相談を行い、日々サービスの質の向上に向けての取り組みを行っている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>3ヶ月毎に事業所便りを発行しており、利用者の暮らしぶりや様子を、色彩豊かな紙面で伝えている。また、家族の面会時や電話で、利用者の健康状態や日常生活を報告するとともに、毎月の請求書と共に金銭預かり金の出納明細を送付している。職員は、日ごろから家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めており、その内容については直ちに検討し、希望に沿えるよう対応している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>全職員が地域に根ざす大切さを認識しており、地元と馴染んだ生活の構築に努めている。町内会に加入しており、地域の行事に参加したり、町内の散策では近隣住民に声かけを行うとともに、災害時には、町内会員が事業所利用者の避難場所への誘導等を行うなど、町内会との協力体制が確立している。また、プランターの花植え作業を近隣住民と協働で行うなど、地域との関係づくりが徐々に深まっている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして制度が改まったのを機に、職員間や各ユニット間で話し合いを行い、理念の中に「生きがいをもって、地域の中で楽しく生活できる家であること」と、明文化している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念を掲示し、管理者や職員は常に理念を念頭におきながら日々のケアサービスに取り組んでいる。職員採用時やミーティング、申し送り等でも常に理念に触れ確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	全職員が地域に根ざす大切さを認識しており、地元と馴染んだ生活の構築に努めている。町内会に加入し、地域の行事に参加したり、災害時の協力を依頼している。また、ボランティアの花植え作業を協働で行うなど、地域との関係が徐々に深まっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を管理者は説明し、職員全員が参加して、自己評価に取り組んでいる。その後の話し合いも行い、今後のケアサービスに活かす努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族・町内会の各代表や市職員を構成員として、2ヶ月に1度開催している。会議においては、活動報告や取り組み内容の説明、また意見交換も行き、事業所の運営に活かしている。会議内容については、他の家族にも報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市と密に連携を取り、サービスの質の向上に努めている。制度の疑問等の問い合わせや相談も日々行っており、行政との連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に事業所便りを発行しており、利用者の暮らしぶりや様子を、色彩豊かな紙面で家族に伝えている。また、利用者の健康状態や日常生活を、面会時や電話で家族に報告するとともに、毎月の請求書と共に金銭預かり金の出納明細を送付している。	○	年に数回、写真掲載の広報を作成しているが、今後は更に、利用者一人ひとりの暮らしぶりを記した担当職員からの「おたより」等を作成し、家族へ送付するなど、きめ細かな報告への取り組みを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日ごろから家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。また、意見・要望等の内容については、直ちに検討し、希望に沿うような対応を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職が、利用者への大きな影響となる事を十分に理解しており、引継ぎには時間をかけるなど、利用者が落ち着いた生活を送れるような支援を実践している。異動があった場合は、広報誌で新しい職員の紹介を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、人材育成の重要性を認識しており、年次計画の中に資格取得の支援や外部研修を盛り込んでいる。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交替で参加し、職員間での共有を図っている。職員が交代で、グループホーム協議会主催の研修会にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者が少なく、交流の機会は乏しい。職員は、個々に他事業所職員との交流を図っているが、事業所全体で交流を図るまでには至っていない。	○	現在の事業所間のネットワークを促進させるとともに、他の事業者との職員間レベルでの相互交流等の機会を捉えて、共にサービスの質の向上に繋げるよう取り組むことを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、利用者や家族と十分に面談を行うとともに、事業所への見学を行っている。利用者本人のペースで馴染めるよう配慮し、納得が得られるよう適切なサービス開始の調整を行っている。利用開始後も、家族に事業所で過ごしてもらったり宿泊してもらったりなど、利用者が無理なく馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面づくりの支援を行っている。また、利用者から生活の知恵や料理の味付けを教わったり励まされるなど、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、専用シートの使用により、利用者の生活歴や心身の状況等の情報を収集している。利用開始後も、家族の意見や本人の希望・意向を、日々の暮らしの中から把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、カンファレンス時に全職員で検討し作成している。また、家族や施設長を交えて話し合い、介護計画に反映するよう心がけている。日常の気付きを大切に記録への取り組みを検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行っているが、利用者の状態変化に応じ、家族の意見も採り入れながら、職員は話し合いを行い、現状に合った介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や理美容院への付き添いなど、利用者の希望に応じた柔軟な支援を実践している。必要物品の買出しや帰省、喫茶店でのお茶の時間作りなどの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の利用開始前からのかかりつけ医への受診支援を行っている。通院についても職員が付き添い、受診内容は常に家族に報告を行っている。家族の同席が必要となる時は、事前に知らせるなど、必要な医療を受けられるような支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に、重度化や終末期に向けた指針を記載しており、家族と方針を共有している。また、関係医療機関と連携を取っており、重度化・終末期への対応を検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような、声かけや対応を心がけている。また、写真の掲載や名前の表示等、個人情報の管理についても、プライバシー保護のための対応を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、強制することなく、職員は利用者一人ひとりを尊重し、利用者の体調や生活歴を大切にしながら、その人らしい生活となるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と同じ食卓につき、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。また、一人ひとりの力量に応じて、調理や後片付けなどを職員と一緒にしている。外食を楽しむ機会も設けており、食事が楽しみなものになるような工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、自由な時間で入浴が可能である。夜間や早朝の入浴希望も可能で、利用者が寛いで入浴できるよう支援している。必要に応じて、シャワー浴や清拭も、さりげない声かけをしながら行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や菜園・花壇の手入れなど、利用者の生活歴に応じた楽しみごとの支援を行っている。また、利用者同士の自然な助け合いはもちろんのこと、培った能力を活かしながら、料理の下ごしらえの手伝いなどを、強制することなく負担のない範囲で行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年次計画の中で外出行事を検討し、地域で行われる季節のイベントや花見など、利用者の希望に合わせた外出支援を行っている。また、事業所の畑での水やりや収穫などを、利用者と職員と一緒に楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。利用者に外出する様子が見られる時は、さりげなく声かけをし、利用者の安全面に配慮しながら、一緒に出かけるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えて、町内会の協力の下、年に2回の通報・避難・消火訓練を実施している。また、町内会では、避難場所までの利用者の移動手段を検討している。最近、法人グループ病院で救急救命研修も行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を個別に記録しており、職員は情報を共有し、利用者の体調管理を行っている。また、管理栄養士による食事メニューの点検を、年間を通じて適宜行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく開放的で、ソファや椅子を多く設置し、利用者が思い思いの場所で過ごせる空間となっている。大きな窓を設置した小上がりを増築するなど、利用者にとって快適な居場所づくりに配慮している。光・音・温度等も適宜調節しており、一日を過ごす憩いの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者によって使いやすいように家具を配置しており、本人が安心して暮らせるような工夫をしている。今までの生活と変わる事なく、精神的負担を軽減できるような配慮をしている。		

※  は、重点項目。